

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成29年4月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

診療情報管理士にとっての現場

田中 一史

滋賀県立成人病センター

私は、通教生の皆さんと同じように病院の事務職員として勤務しながら診療情報管理を学びました。通教の教科書やスクーリングの講義は、それまでの経験や知識を整理し確認する絶好の機会となりました。その後、多種多様化していく診療情報管理業務を経験しながら、さらに多くのことを学びました。この通教のスクーリングで講義させていただくことも、私個人にとって非常に重要な自己研鑽のツールとなっています。

かつて「診療情報管理士にとっての現場はどこですか」という問いに「記録そのものです」と答えた人がいましたが、私はそうではないと考えています。医療における現場とはいつも「患者さんの居る場所」であり、私たちは診療記録の中から現場でどのような医療が行われたかを読み取らなければなりません。同時に、その記録がいつ誰によってどのように作成されたかを理解しておかなければなりません。多忙を極める医師や医療従事者が、限られた時間のなかで診察や医療行為などの事実と診断や治療計画などを記録することは、簡単なことではありません。しかし、記録は絶対に必要です。正確な記録でなければなりません。そのために、診療情報管理士として何ができるかを考えることが重要です。書きやすい様式(電子カルテシステム)を用意し、二重記録(入力)や転記を無くすことなどを他職種と共に検討し、質の高い記録を効率的に作成できる環境づくりに努めなければなりません。

診療情報管理士には「高いスキルと自己研鑽が求められる」と言われますが、それらは医療現場で活かされてこそ価値があります。病院職員としての経験や知識に加え、診療情報管理を学ばれることで、客観性のある根拠に基づいて考え行動する力を養ってください。「医療情勢が厳しい」とか「医療を取り巻く環境変化が著しい」という言葉もよく耳にしますが、何がどう厳しいのか、何がどう変化したのかを正しく理解しなければ対策はありません。質の高い記録から得た情報をもとに実績や課題・問題点を可視化し、改善・向上に結びつけるプロセスにおいて、診療情報管理士の役割は非常に重要です。このことが「チーム医療への参加」そのものです。診療情報管理士の認定はそのための通過点であり、その力を活かす場は確実に広がっています。

